

面倒くさく

本井

英

新松子にも塩害のあからさま
この夏の猛暑の果ての秋の蚊に
秋の蚊に喰はることも恢復期
平日の十月十日晴れあがり
秋潮のくつがへるとき裡透ける
御用邸ぎはの苗代茱萸の花
秋潮の踝ほどをくづれけり
秋の浜にまじれる砂鉄ひかりとす
川澄むや海のちかさに河豚の子も
小作とてありし世のこと稲を扱く

秋水の肉むらだつは鯉あふつ

熊鈴を忘れ来しこと草紅葉

星くばるまで秋晴でありにけり

実の赤のひとつかみづつ七竈

この町に見舞ひたき人十三夜

ここにかく椎拾ふこと亡妻知らず

茶の菴灯らんとして垂れにけり

初鴨の五羽がかたまり族ウカめく

ハロウインと聞くだけで面倒くさく

柳蘭の枯れも果てたる白髪かな